

PLEIADES



天の川 銀河 (右端に大マゼラン銀河と小マゼラン銀河)

円周魚眼レンズ F4.0+EOS 5D 8分露出 ISO800 オーストラリア パースにて (撮影: 生田 盛)

詳細は2P参照

札幌天文同好会 Sapporo Astronomy Club

5月例会 出席者の一言

生田 盛：オーストラリア撮影ツアーで初めて本格的にデジカメのガイド撮影に挑戦しました。市販されているデジカメは、天体撮影の操作には改善すべき点が多い。今回の撮影では、天頂を付近を撮ることが多かったが、構図を決めるためのファインダーの位置が、私にとって苦しい姿勢を強いられ、拷問に等しい。まずはこの点を改良してみたい。

中山 正：こと座流星群は4月17日～23日まで、浜益方面へ出かけましたが、HR5程度に終わりました。「大人の科学Vo115」で紙フィルム映写機が発売されました。カラーのアポロ11号の写真が手に入りました。記念になりますよ！ムーンライトウォッチングは1回目を開催し、今回も月面写真教室を実施して好評でした。手持ちコリメート用にペンタックスistDsの組み合わせとして30mm F1.4のレンズを購入しました。写りは良好です。

越後恵子：やっと旬の山菜を採って食べることが出来ました。春の新芽の勢いを身体に取り入れたら元気が出そうな気がします。(アイヌネギの醤油漬けを頂きました。美味しく、その夜の晩酌で全一

人でいただきました。：編集子)

大場先生の「私の愛機」を読んでいたら、夫が30年前に「大場ビル2F」に事務所を借りていたことがわかりました。木造の小さなビルだったと記憶していますが、思わぬところでご縁があったので、驚きました。

西野 浩：天文雑誌がたまり過ぎて、部屋が乱雑になったので、連休を利用して整理しました。今は「月刊天文ガイド」と「星ナビ」ですが、かつての「月刊天文」もあり、3誌20年分を整理するため本箱を買いました。皆さんは、どう整理していますか。

(編集子は、大抵は1年後に捨てます。ただし、参考になる記事は切り抜いてスクラップブックへ。投稿した記事や写真が掲載された時だけ、永久保存してます。)

石塚宣充：最近星を見ておりません。運び出す望遠鏡は重いうえに、2～3m先に明るい街灯があります。街灯が移動してくれると良いのですが、保安上ダメでしょう。

柴田健一：編集後記参照

5月例会より

1. 2007年オーストラリア遠征より 南天の「天の川」

(生田)

4月14日から21日まで、オーストラリアのパス(33° S、人口150万人の綺麗な町)の南150kmのウィリアムスという、牧場において総勢15人で南天を撮影してきました。メンバーは中西さんや、岡野さんなど有名な人達と一緒に活動しました。天候は3.5勝1.5敗でした。私は南天から見た天の川銀河を150枚撮影しました。しかし、構図の決定のための100枚が含まれています。

これまで、動画中心に星を撮影してきましたが、今回は初めて、本格的に静止画撮影に取り組みました。しかし、タカハシのポタ赤道儀の極軸設定が暗くて見づらいこと、魚眼レンズで天頂撮影が多かったことから構図決定に苦労しました。後者については、市販のアングルファインダーを使うことなく、明るく見やすいファインダーの製作が必要かと考えております。

カメラは、EOS5Dの赤外線改造と無改造の2台を持

参しました。3夜目に改造カメラが故障しましたが、もう1台があったので事なきを得ました。撮影は全てRAW画像で行い現像しましたが、IR改造の有る無しにかかわらず、本当の銀河の色が出せなくて苦労しています。明日、オーロラ撮影家中垣さんに教えを請いに行く予定をしています。



15mm対角魚眼 F5.6 8分露出 ISO800

(印刷の都合上編集子が明るさを変更しています)



15mm対角魚眼 F4.5 2分 ISO1600

(印刷の都合上編集子が明るさを変更しています)

表紙を含む撮影共通データ

場 所：西オーストラリア州都パース南方150 km
ウイリアムス

日 時：2007/04/15～20

カメラ：Canon 5D

IR改修 1台

IR非改修 1台

データ記録形式RAW

ホワイトバランス：

オート

赤道儀：タカハシ

スカイポッド(改修)



Canon 5D

最後に、天の川は我々が住む銀河系(小宇宙)です。空のきれいなオーストラリアの大地で、この天の川を見ていると「私も宇宙人だ」との思いを強くしました。

2. 50周年記念誌編集について(柴田)

これまで収集した情報を元に編集会議を行いました。20周年と30周年の記念号は発行しているので、1986年以降の20年と50年祝賀会の様子を中心に構成する。例外を除いて、当会単独の行事・観測会とする。従って、会員の皆さんは1986年以降の写真提供をお願いします。構成は、第1部：会長あいさつ 第2部祝賀会、第3部：創立時の名簿など資料、会員からの寄稿文、第4部：1号～32号までの表紙写真と目次、第5部1998～2006年までの会報をCD化して添付、第6部：1986～1997年までの毎年の会報はあるので、1997年～2006年までの①観測会②新年会などの写真を中心に解説。

なお、1997年～2006年までの柴田会員の写真は多数ありますが、他の会員の写真が少ないので、ご自分が中心になって写っている写真を発掘して編集局まで届けてください。

3. ラブジョイ彗星の撮影(柴田)

4月23日・27日・30日の夜、4月25日には地球から0.4天文単位まで近づき、7等級まで増光すると期待されたラブジョイ彗星を撮影しました。目的は77E D IIの試写です。結果は、76EDの眼視でも確認できず、デジカメで撮影により確認しましたが、27日はデジカメでも確認できませんでした。探し方が悪かったのでしょうか。

さて、23日は絶好の日和でしたが、出発時に南から低い雲が流れてきたので予定を変更し、赤井川村まで往復150 km走りました。ここまで来ると札幌の灯は無かったものの、小樽市街の影響を受けてバックが赤くなったので、自然な色に変えています。(第1図)30日は満月に近い中の撮影でした。それでも、M57の例(第2・3図)からわかるように、青の彩度と明度を低下させることにより9等級でも予想以上に写り、恒星は15等級くらいまで写っています。同じ処理をしたラブジョイ彗星が第4図です。条件が悪い中での暗い彗星としては良く写ったと考えています。

このほか、77E D IIと同じく「北海道星ウォッチング」で発表したAi AF ED180mm F2.8で撮影しました。旧レンズで問題としていた、ピント出し、星像などについて、ほぼ満足な結果が得られました。

今回は、月明かりの中の撮影がポイントになりました。カブラない適正なF値と露出時間を求め、適

切な画像処理により目的の天体を浮かび上がらせることが面白いテーマになると感じました。

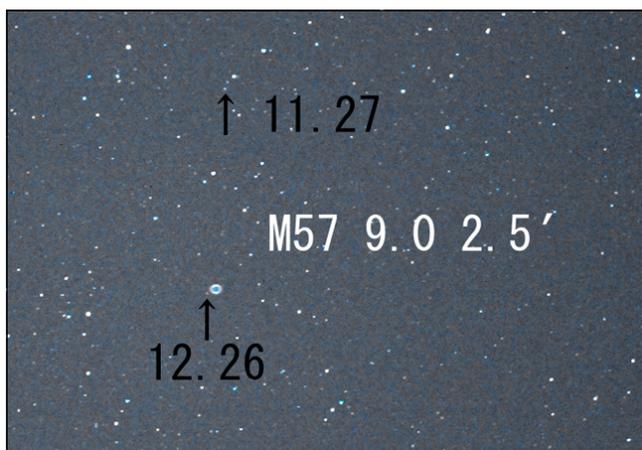


第1図 明かりなしのラブジョイ彗星

小樽市の明かり（赤）はPhotoshopで弱めてある
彗星は、恒星に重なっているの、核は写真ほど明るくない



第2図 月光下で撮影したM57（未処理）



第3図

第2図をPhotoshopで処理すると暗い恒星はもちろん、暗い星雲も浮かび上がってくる。↑の対象はM57で無く、側にある恒星（12.26）であり、9.0等級のM57惑星状星雲も明瞭に写っている。露出130秒



第4図 第2図に示した月光下で撮影したラブジョイ彗星をPhotoshopにて処理

以上の写真は、77ED II（77mm F6.6×0.8レデューサー＝F5.3により撮影 第3図を除きノートリミング



第5図 Ai AF ED180mm F2.8によるラブジョイ彗星 旧レンズで問題としていたピント出し・星像などに満足 ノートリミング

4. 4月のムーンライトウォッチング（中山・西野）

日時：4月28日（土）

天候：晴れ

観望対象：月・土星

使用機材：20cm反射・15cm屈折・8cm屈折
10cm双眼鏡

参加人数：40名

協力会員：西野・越後・中山

開催状況：日中の暖かさに比べやはり夜は寒くなり、人通りも少なくスケートボーダーがいなければさびしい開催でした。参加者のほとんどが観光客でした。今回は準備が遅れ、19：30に望遠鏡4台をセットするのが精一杯でしたが、月と土星を堪能して

いただきました。今年も手持ちデジカメによる月面撮影教室を開催しました。

また、ビデオカメラを15センチ屈折に付けてみました。しかし、フリップミラーでビデオと眼視の切り替えをしたため、ピント位置に違いがあり、活用にはいたりませんでした。



4月28日の様子、後方はローラースケートボーダー

2007年こと座κ流星群観測手記

中山 正

4月17・18・19・21・22・23日で、こと群7個、散在6個を確認しました。初日に見たこぐま座に飛んだ飛行機雲のように太い痕の残った1等級の散在流星が今回一番すごかったものでした。しかし、18・19・21はゼロ。22・23日に見たこと座流星群は最大光度2等級の流星でした。

17日は写真でもきれいにピントが出たのですが、22・23日を含め他の日は星がもぼんやりしていました。新聞によると札幌にも黄砂が飛来していたと載っており、そのせいかもしれません。

今年のこと座κ流星群は例年通りHR5程度でしたし、ラブジョイ彗星も肉眼では解りませんでした。今年最初の星見でしたが、あまり良い結果ではありませんでした。でも、これからに期待したいところです。



観測方向で放射点のあること座

2007年4月18日24時25分
f=40 F4.5 108.9秒 アストロR83赤道機にて
ISO800 6M ペンタックス istDs 自動ガイド 石狩市 浜益 スキー場にて

事務局より

●次回例会

6月例会は2日です。会場は札幌市社会福祉総合センター3階第2会議室

●会費納入のお願い

会費未払いの会員は、納入をお願いいたします。例会に持参いただくか下記に振り込み願います。郵便振替口座：02780-7-31295

名称：札幌天文同好会

●会員募集

会員募集案内を、20日の北海道新聞の掲示板に掲載しました。まだ、問い合わせはありません。

●プリンター購入

これまで会報の印刷局である生田さんは、ご自分のプリンターを使用して印刷してきました。しかし、当会として印刷の手間を軽減するためハイスピードの新型プリンターMP810 (CANON) を購入しました。会報を印刷で受領している方は、近々このプリンターにより印刷されたものが郵送されます。詳細は、6月例会で、生田会員から報告があります。

6月 中山事務局長特選の天文現象

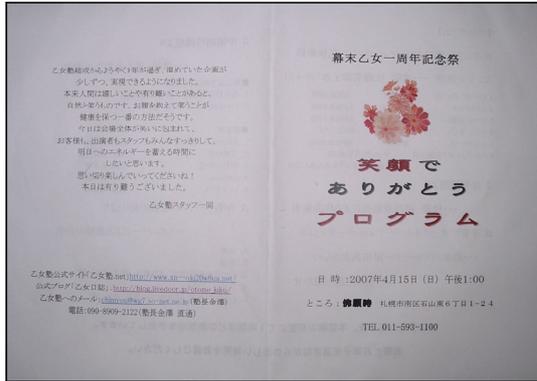
●6月上旬夕方水星と金星と月が双子座付近で並びます。

●6日19日夕方、土星食があります

横山明日香 会員のオーロラ展示を見てきました

中山 正

4月15日 石山の佛願寺で行われた幕末乙女塾一周年記念コンサートで併設して、横山会員のオーロラ写真が展示されました。入口ではオーロラポストカードの販売も同時に行われていました。フィンランド民族楽器のカンテレや二胡の演奏、合唱・絵本の読み聞かせパフォーマンスなどもありました。乙女塾のグッズのほかたこ焼きや和菓子などの販売も行われていました。



編集後記

柴田 健一

会社の所属に変更はありませんが、4月から仕事場が変更（大通り東3丁目↓4丁目）になりました。このため、昼休みもろくにとれないくらい忙しい環境になりました。幸いリハビリが順調なので、骨は付かなくても日常の軽作業が可能なので給料分は働いています。5月のレントゲン写真で主治医から骨折の完治は1年と宣告されました。これまでの私の質問について、完治があまりにも長いので、明確に答えるのを控えていたとのことです。基本的には一人職場ですが、要請すれば直ぐに応援が来るので安心はしています。後は、無理をしてプレートを固定しているネジを折らないことです。

それにしても、これから仕事が厳しくなるので会報の発行は遅れ、次回例会前日なんと言う事態も覚悟しておいてください。

4月23日、古潭観測所で春の整備をしてきました。周囲の枝払い・笹狩りのほか、蛇の進入防止対策として、たばこの吸い殻を撒いてきました。さらに、スライドルーフの手入れで、潤滑剤を散布後チルホールで引っ張り開けたりです。その夜、残って撮影したのが、記事にある月下のラブジョイ彗星です。このとき明確になったのが、アトラス赤道儀のアライメント設定に購入時から不具合があったことです。現在は、ビクセンの工場での修理中です。

発行：2007（平成19）年 5月20日 札幌天文同好会 Sapporo Astronomy Club

事務局：〒007-0845 札幌市東区北45条東9丁目2-33 TEL：011-741-8830

中山 正

編集・ホームページ：柴田健一 / 印刷：生田 盛 / 印刷部数：20

HP：<http://www2.snowman.ne.jp/~Shibata/>

郵便振替口座：02780-7-31295 名称：札幌天文同好会